

<講演>27. キャスタブルガラスセラミックスに関する研究：とくに色調について(東日本学園大学歯学会第9回学術大会(平成3年度))

著者名(日)	白井 伸一, 越智 守生, 広瀬 由起人, 澤田 教彰, 伊藤 仁, 木村 茂隆, 肥後 文章, 坂口 邦彦
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	10
号	1
ページ	56
発行年	1991-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00007618/

26. 国際シンポジウム「歯学教育における臨床シミュレーション」の出席報告

松田浩一（歯科保存II）

国際シンポジウム「歯学教育における臨床シミュレーション」が、去る1990年10月6～9日ボルチモア（メリーランド州、アメリカ）にて、メリーランド大学とウエストバージニア大学の共催で開かれた。

このシンポジウムで論じられた内容は、「精神運動性スキル獲得のための概念、方法、機械および施設、であった。

基調講演では、診療行為をパフォーマンスの面から、概念→シミュレーション→現実の診療行為ととらえ、いかに正確で責任あるパフォーマンスを行なうにはどのよ

うにしたらよいか話がされた。

一般講演では、パフォーマンスを行なうための精神運動スキル獲得の概念、方法、機械および施設に関して19の講演が行なわれた。その内容は、1)術者、患者にとって、自然でバランスのとれた診療行為を行なうにはどのようにしたらよいか、2)それをどのように教えたら教育効果が上がるのか。3)そのシミュレーション、パフォーマンスを実習するシミュレーターはどのようなものがよいか、が論じられた。

27. キャスタブルガラスセラミックスに関する研究

—とくに色調について—

白井伸一、越智守生、広瀬由起人
澤田教彰、伊藤 仁、木村茂隆
肥後文章、坂口邦彦
(歯科補綴II)

キャストブルガラスセラミックスの色調の要素には、ガラス母材そのものの色、そして表面に塗布する専用着色材の色、さらに接着するセメントの色があげられる。シェードマッチングの際はこれらのほか多くの複雑な要因が介在するため、十分な検討が必要である。

歯冠用キャストブルガラスセラミックスの臨床応用について、前回までその強度、接着性、着色材の耐摩耗性などを報告してきたが、今回は、ガラス母材および着色後の光透過性と色調、背景の色調遮断能力について報告した。

その結果から、

- 1) ビタシェードとキャストブルガラスセラミックスの色調の比較を行なった結果、ガラスは色彩においてビタシェードより緑がかっていることが分った。このことが、さらに透明感を強調することになると思われる。
- 2) キャスタブルガラスセラミックス単体の光透過性試

験から、背景色の影響を強くうけることが分った。色調の補正が必要な場合には、合着用のセメントに、よりオペーク効果の高い材料を用いることが望ましい。

このことはスーパーボンドC&Bオペークアイボリーが背景遮断能に優れた結果を示したことで確認された。3) キャスタブルガラスセラミックスの専用着色材は、ポーセレンのステインとは目的が異なり、それ自体でキャストブルガラスセラミックスの色調をだすもので、したがって、その効果が損われる塗布、焼成法では不十分であり、数回の塗布、焼成が必要である。以上のことが確認された。

今後、臨床に充分応用できる可能性があると思われるが、さらに、キャストブルガラスセラミックス専用のシェードガイドとオペーク効果が高いセメントを検討中である。